

ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 31 2009. 8

特集

みやぎ資料室へようこそ

現在常設展でご紹介している江戸時代の鳥類図譜「禽譜」に描かれている鳥を、実物とほぼ同じくらいに拡大し、2階壁面に期間中掲示しています。(展示のご案内は4ページをご覧ください)



思いつきの二冊の本

佐藤 明男

テレビもラジオもない貧しい家が村の六、七割もあって、わが家もその中の一つであった。体が弱く学校の勉強も嫌いだだったが、なぜか本を読むことだけは好きで、ほっとする居心地のよい場所を見つけたようなものである。

小学四年の担任で図書クラブの顧問をしていた先生が、一年前倒しで認めてやるから図書クラブに入ったらと配慮してくれた。図書室の本の貸付、破れたものの補修、新刊本のラベル貼り、誰よりも先に読めることに夢中でする休みもなくなり親も喜んでいた。

五歳年上の中学生の兄が、その年の夏休みに有島武郎作の「或る女」という本を借りてきたので、兄が不在のときこっそり読み始め二日で読み終えたのだが、小説の意味がわからない。どうして女が男を捨てて他の男に走るのか。そのわけを誰かに聞くこともできず、中学に行ったら図書クラブに入つて真っ先にあの本をもう一度読んでみようと思った。四年後に再び食べるように読んでみると、世間の常識や慣習を無視した自由奔放な女の生き方に驚き、思わず憧れの一人になってしまった。